

4月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

<4月16日県内保健所担当者研修会が開催されました>

今年も恒例の表記研修会が県庁会議室にて開催されました。

今年度より保健所の管轄地域が一部統合され、従来のひたちなか、鉾田、常総の各保健所管轄を、それぞれ常陸大宮、潮来、筑西の各保健所が統括することになりました。そこで今年度の研修会には県内12保健所中、9保健所のご担当者が出席されました。その他の参加者は、県薬務課2名、県血液センター2名、当会より伊井さん、福間さん、葭原さん、牛島の4名が参加しました。薬務課のご担当も今年度より原さんから叶多(かのうだ)さんに変更となりました。研修会では冒頭に薬務課の根本技佐よりご挨拶があり、続いて叶多さんより骨髓バンク事業の概要と昨年度の登録状況について説明がありました。昨年度の登録状況は、従来の1保健所年2回開催より年1回開催に変更となったものの、結果として平均年2回以上の合計25回開催で422名の登録者を得ることができました。今年度は4月16日現在で合計18回の登録会が計画されております。薬務課の説明終了後、当会より説明員の業務と役割に関する説明に移りました。冒頭、牛島より会長交代の挨拶と、10周年記念誌発刊についての説明を行いました。その後昨年度に続いて伊井さんより登録会受付・説明マニュアルなどの資料により、登録会当日の業務手順や説明内容に関する詳しい説明がありました。当日参加された保健所ご担当者の方々は大半の方が研修会初参加のため、皆さん熱心に説明に耳を傾けておられました。(牛島英二)

5月13日 茨城県庁献血併行登録会

ドナー登録者数 35名 (受付 35名)
献血者数 101名 (受付 133名)
参加者 水戸保健所：田邊様
いばらきの会 福間さん、葭原さん、長尾さん、川井さん
地区普及広報委員 伊井義人

献血会場の福利厚生棟は県庁本館に隣接しておりますが、あまり人通りもなく、午前中は献血希望者も列をなすほどの混み具合になることはありませんでした。そんな中、バンク登録者は午前中で15名とますますの出だしでした。献血は昼休みなしで行われたため、バンク登録も交代で食事をしながら通して行いました。午後になり、徐々に献血も混み始め、3時頃はピークを迎えましたが、バンク登録も同様にピークを迎え、一時は説明の順番待ちまで出ました。今年度初めての登録会でしたが、終わってみれば35名と、上々の結果ではなかったかと思えます。献血に来られた方の中には、バンク登録を第一の目的に来られた方も数人いらっしゃり、嬉しい一日となりました。参加された皆さん、大変お疲れ様でした。(伊井義人)

6月5日 きらくやまふれあいの丘「こどもまつり」参加報告

6月5日 きらくやまふれあいの丘でバンク登録のPRに参加しました。

当日は朝10時に開会。登録はなくPRのみで、バルーンやアサガオの種を子どもたちに配って骨髓バンクへの関心を高めるもので、伊井会長、福間さん、川井さん、葭原さん、私の5人が参加し、和気あいあいとPR作戦が始まりました。子どもたちのリクエストに応えながらバルーンを作っていたのですが、作成中は不安げに見ている子供たちの顔が、完成したバルーンを手渡した途端、顔全体に花が咲いたような嬉しい笑顔を浮かべてくれました。それを見て喜んでくれている保護者の方々に、福間さんがつかさずバンク登録のPR(^_^)

会場では、「登録したいんですが」とブースに来てくださる関心の高い方も多く、「今日はPRだけで…」というのが心苦しかったです。もし、あの場で登録会もできていたら、それなりの数の方が登録してくださったのではないかと思います。後日登録して下さっていることを願うばかりです。こどもまつりの主催者側から、「また参加してください！」との言葉をいただけたので、今後バンクPRだけでなく登録会へと進んでいければと期待が膨らみました。(境野 紀子)

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

4月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

6月11日 キヤノン取手事業所献血併行登録会

ドナー登録者数 32名 (受付 37名)
献血者数 116名 (受付 150名)
参加者 竜ヶ崎保健所：児玉様、小守谷様
いばらきの会 伊井さん、長尾さん、葭原さん、稲葉さん
地区普及広報委員 牛島英二

今回で4回目となる同事業所での開催でしたが、今回もまた多くの方々にご登録いただき、結果として過去最高の32名ものご登録がありました。献血の方も受付・問診前に常時長い待ち行列ができるほどの盛況で、行列の案内・誘導のお手伝いに精を出しました。事業所のご担当者である健康支援室の黄さんにもご登録いただきました。今回は地区普及広報委員の伊井さんに献血申込みでのささやき作戦を担当してもらいましたが、伊井さんの積極的かつていねいな勧誘の効果はとて大きく、多くの方が伊井さんの声掛けに応じてくれました。さらに複数名の方に、次回献血時に記載済み申込書を持参すれば登録可能であることを説明し、チャンスをお渡しして登録していただくようお願いしておきました。(牛島英二)

6月16日 筑波大学献血併行登録会

ドナー登録者数 37名 (受付 41名)
献血者数 85名 (受付 116名)
参加者 つくば保健所：岡田様
いばらきの会 伊井さん、長尾さん、葭原さん、福間明子さん
地区普及広報委員 福間 究

雨の天気予報でしたので、テントは張れるか、風でテントが飛ばされないか心配でした。今までは、2階の屋外に献血受付テントとバンク受付テントを設け、1階に献血バスが停車していましたが、幸い、今回は午後から献血バスが2台になり、1階の献血バスの横が献血終了受付テントになるので、その隣の建物軒下をバンク受付にすることが出来、とりあえず雨の心配はしなくて良くなりました。ところが、結局、登録会開催中は1滴の雨も降らず、蒸し暑い一日でした。午前中は学生さんの往来が少なく、献血者もわずかでしたが、授業が終わりだした午後からは、時間ごとに献血者やバンク登録が増え、最終的には献血もドナー登録も昨年の実績を超えました。学生さんにドナー登録を呼びかけると、「以前から登録したかった」と答えた方が数人あり、うれしいと共に、ドナー登録会をやって良かったとつくづく感じました。今回の登録会はフレッシュな学生さんと、天気に助けられた登録会でした。また、今回の登録会ではつくば保健所で研修中のお医者さん(てっきり、昨年と同じ、筑波大学医学部の5年生だと思っていました)にドナー登録会についての説明をしました。(福間究)

6月28日 行方市麻生保険センター献血併行登録会

ドナー登録者数 8名 (受付 8名)
献血者数 51名 (受付 61名)
参加者 潮来保健所：高安様、井坂様
いばらきの会 長尾さん、伊井さん
地区普及広報委員 葭原健治

午前中は曇りで蒸し暑い日でした。
午後は、日差しが強くなり蒸し暑い一日になりました。
登録会場は行方市麻生庁舎となりの行方市麻生保健センター入り口横に献血バスが停車し、献血受付バンク受付および麻生創生会の方々と保健センターロビー隣のゆったりした室内で行われました。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

4月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

保健センター付近は人通りがなく、またセンター内は土足厳禁で、履物を履きかえるので、少ないかな？と心配していましたが、献血は毎回このスタイルで行われているようで、思ったより献血する方が、それほど途切れることもなくおいででした。午前、午後を通してバンク登録者は、8名と少ない結果になりましたが、すでに既登録の方が十数名おられたと言うことを報告しておきます。

登録される方々も呼びかけると、快諾される方が多かったように感じました。

暑い一日で、お疲れ様でした。当日ご協力していただいた方々に感謝。（葭原健治）

7月5日 三菱化学(株)鹿島事業所献血併行登録会

ドナー登録者数 23名（受付 24名）
献 血 者 数 58名（受付 69名）
参 加 者 潮来保健所：高安様、井坂様
いばらきの会 伊井さん、伊井陽子さん
地区普及広報委員 葭原健治

午前中は日差しが強く蒸し暑い日で、午後は、雲が低くなり蒸し暑い一日でしたが、室内での受付で快適に行うことができました。登録会場は三菱化学（株）鹿島事業所内の食堂のある棟で行われ、入り口横に献血バスが停車し献血受付、バンク受付は入り口ロビーのゆったりした室内で行われました。全体を通して献血に訪れる方が受付待ちで混雑することはなく、また、受付に訪れる方が途切れることもありませんでした。午後3時ごろに少し採血待ちがある程度でした。バンク登録者は午前中は、10名弱でしたが、午後多くの方が登録され23名の結果になりました。また、今回も既登録の方が14名おりました。献血に訪れる方々、ほとんど全員に登録のお願いを呼びかけると、今回も快諾される方が多かったように感じました。暑い一日で、参加された方はお疲れ様でした。当日ご協力していただいた方々に感謝。（葭原健治）

7月25日 いしおか七夕まつり会場献血併行登録会&ペンシルバルーン募金

ドナー登録者数 13名（受付 15名）
献 血 者 数 24名（受付 46名）
募 金 金 額 ￥1,645-
参 加 者 土浦保健所：藤村様
いばらきの会 伊井さん、牛島さん、川井さん、長尾さん、福間さん、弓野さん、和田さん
地区普及広報委員 葭原健治

今週に入ってから連日の猛暑が続き熱い一日でした。時折太陽が雲に隠れるとともに風があり、気休め程度に涼やかな時がありました。登録会場は、主催者により準備された2張のテント（献血用、バンク用）を使い、受付と説明用テーブルを設置して10時過ぎより受付開始となりました。午前中は人通りも少なく、献血・登録ともに数は全く伸びませんでした。午後からは次第に七夕来場者が多くなり、献血受付に訪れる方も増え、バンク登録も増えましたが、駅前という立地条件の良さにもかかわらず、昨年とほとんど同様の結果になりました。猛暑の中、炎天下で終日チラシ配布にがんばっていただいた参加者の方々、また協力してくださった方々に感謝です。大変お疲れ様でした。まだ説明員ではないのですが、茨城の会の後藤さんが参加してくれました。ありがとうございました。

（葭原健治）

いしおか七夕祭りでのバルーン募金の結果をご報告します。

結果は 1,645円 でした。ブースの前を通る子供達があまりにも少なく、また、昨年同様、足長ピエロに扮したバルーンのパフォーマーもいて、結果として昨年の約1/4で、盛況にはほど遠いものでした。来年度は、献血&登録会が開催されたとしても、バルーン募金は一考の余地があるかも知れません。暑い中、孤軍奮闘された川井さんはじめ、参加された皆さん、大変お疲れ様でした。

（伊井義人）

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

4月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

8月25日 筑西市役所献血併行登録会

ドナー登録者数 5名 (受付 5名)
献血者数 35名 (受付 50名)
参加者 筑西保健所：深澤様
いばらきの会 葭原さん、長尾さん
地区普及広報委員 細谷栄一

一体いつになったらこの暑さは和らぐのか。当日も朝から厳しい暑さの中、登録会が始まりました。午前中は献血希望者の数もまばらで献血者数も骨髄バンク登録者数も全く増えませんでした。私の記憶が正しければ下館市役所時代に登録会を開催しているはずで、それは8年前です。その当事よりは骨髄バンクも認知され、潜在的な登録希望者もきっと多いはずだと期待しておりました。しかし、午後になって献血希望者数は少し増えてきましたが、骨髄バンク登録希望者は思うように増えてくれません。結果5名と少々寂しい数字になってしまいました。暑い中ご参加いただいた皆様本当にありがとう御座いました。(細谷栄一)

8月26日 古河市役所総和庁舎献血併行登録会

ドナー登録者数 17名 (受付 17名)
献血者数 55名 (受付 67名)
参加者 古河保健所：村田様
いばらきの会 葭原さん
地区普及広報委員 牛島英二 (細谷代理)

総和庁舎でのドナー登録会開催は平成14年以来、8年ぶりとなります。連日の猛暑の中、献血者数の伸びが心配されましたが、受付開始と共に途切れることなく献血希望の方が会場を訪れ、それに比例してドナー登録者も午前中で10名と順調な滑り出しを見せました。献血受付には地元総和ライオンズクラブのメンバーの方々も常駐していただき、とてもありがたく思いました。午後からは献血者のほうは若干伸び悩みましたが、ドナー登録者の方は結果として17名とますますの成績を残すことができました。今回は伊井さんが作成された「ドナー勧誘の手順&対応」マニュアルに従い、献血申込者に対して積極的な声掛けを実施したことが好成績の一因でした。やはり、声掛けの際の「あと一押し」が有効であることを実感いたしました。(牛島英二)

8月29日 つくば献血ルーム(まつりつくば)献血併行登録会

ドナー登録者数 18名 (受付 19名)
献血者数 80名 (受付 90名)
参加者 つくば保健所：岡田様
いばらきの会 伊井さん、葭原さん、和田さん、後藤さん
地区普及広報委員 福間究

リニューアルされたつくば献血ルームでの登録会でしたので期待していましたが、残念ながらドナー登録は少ない結果でした。理由は、まつりつくば会場が研究学園駅付近と2個所に分かれ、中央広場への参加者が少なくなったことでもあります。最大の原因は「暑さ」でした。毎年、つくば献血ルーム前は暑くて大変ですが、それにもまして今年の暑さは特別でした。打ち水をして全く効果がなかったため、献血に来た人でドナー登録もされる方を、冷房の効いた血ルームから灼熱の(少々オーバーですが)献血ルーム前のテントに来ていただくのは気の毒なので、献血ルームの許可を得てルーム内で登録手続きをしました。ルーム内で登録手続きが出来たのも

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

4月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

広くなった待合室のお陰で、以前の狭い待合室だったらドナー登録はもっと少なかったかもしれません。



今回はつくば保健所の岡田さんの提案で、県パンフと一緒に配るチラシの裏側に「熱中症予防」と「食中毒予防」の注意文を記載しましたが、残念ながら、配布担当の私達が熱中症気味で十分に配れませんでした。

(福間究)

9月14日 日立アプライアンス(株)多賀事業所献血併行登録会

ドナー登録者数 17名 (受付 19名)
献血者数 36名 (受付 49名)
参加者 日立保健所：菊池様、大内様
いばらきの会 瀧さん、井手さん
地区普及広報委員 牛島英二

猛暑もようやく収まり、涼しい天候の中開催されたドナー登録会となりました。社員食堂や診療所などがある建物の2階会議室を会場として登録受付を行いました。この会場でのドナー登録会は初めての開催となります。午前中は献血者も少なく、登録者も5名程度でしたが、午後からは次第に献血者も増加し、献血受付でのセンター職員の方による声掛けの効果もあり、多くの方にご登録いただくことができました。社員の方々の骨髄バンクに対する関心も高く、一時は同時に3名の方に説明する場面もあり、結果として17名と、献血者の約半数の方々にご登録いただきました。(牛島英二)

9月11日「骨髄バンク20年目の同窓会・患者とドナー1000人の集い」が開催されました。

全国骨髄バンク推進連絡協議会主催による「骨髄バンク20年目の同窓会・患者とドナー1000人の集い」が福島の裏磐梯猫魔ホテルにて開催されました

9月11日、全国骨髄バンク推進連絡協議会主催の「骨髄バンク20年目の同窓会・患者とドナー1000人の集い」が、裏磐梯猫魔ホテルにて開催されました。これは骨髄バンク(かつての民間バンクも含む)を通じて骨髄移植を受けた患者さんと提供したドナーが一同に集い、語りながら交流することで、今も病と闘う患者さんの希望になればと開催されました。いばらきの会からは、患者として山崎さん夫妻・川井さん・和田さん・福間が、ドナーとして伊井さんが、ボランティアとして小田倉さんの計7人が参加しました。交流会では、ステージ上に山崎にさん夫妻が登壇し「移植者同士の夫婦」として紹介されました。

また、伊井さんがドナーとして「参加者メッセージ」を披露しました。

ドナーと患者とのマッチングコーナーでは、患者とドナーの移植(提供)した年月が同じ人で和田さんが登場しましたが、残念ながら提供を受けたドナーさんではありませんでした。和田さんのような方は何組かありましたが、残念ながら完全に一致した患者とドナーはいませんでした。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

4月～9月 茨城県内イベント登録会等報告



和田さんは同じテーブルの方が、偶然にも、入院病院で一緒だった人でした。

私も隣に座った方が私と同じ病院で18年前に移植した方でした。また、以前、いばらきの会に応援に来ていた川崎の宮城さんがボランティアとして参加していました。

骨髄移植に関係した者が一同に会し交流を図れたことは大変有意義で、主催者は大変でしょうが数年ごとに開催していただけたらと思いました。(福間 究)

9月12日「骨髄バンク推進全国大会2010in新潟」開催される

9月12日新潟県の新潟市民プラザにて「骨髄バンク推進全国大会2010in新潟」が開催されました。以下参加者報告です。

今年の全国大会は「命をつなぐチームプレー」というサブタイトルで行われました。当会からは、福間さん、葭原さん、小田倉さん、伊井と4人が参加いたしました。会場となった新潟市民プラザは、新潟市中央区にある高層ビルで、新潟市のランドマーク的存在となっているようで、会場も500人は収容可能という立派なホールでした。第1部の式典では、なんと23もの団体・学校などが感謝状を授与されましたが、ほとんどの受賞者は地元新潟県の団体で、仮に茨城県で開催するとそれだけ受賞候補がいるのかなど、若干の不安を覚えたのは事実です。それほど多くの企業・団体・学校が骨髄バンクを支援しているということは、本当に素晴らしいことだと感心いたしました。1部の終わりには、元気になった患者さんからのメッセージを斉木翔太君(10才)が伝えてくれました。とても立派な大人顔負けのメッセージで、その内容に頼に自然と涙が伝い、会場からも鼻をすする音があちらこちらで聞こえてきました。第2部は新潟ジュニア合唱団のミニコンサートから始まり、各界のスポーツ選手によるトークショー、クイズコーナーなどなど。ミニコンサートは、ミュージカルのように踊りながらの合唱があったりで、なかなか楽しませて戴きました。トークショーでは、支え合うことの大切さをスポーツを通じて伝えていただきました。感想としては、全体をとおして、非常にスムーズな流れで進行されたよう感じましたが、特にこれまでの

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

4月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

全国大会のイメージと違ったのは、バンク事業の概要説明が簡潔に行われたという感じで、お堅いイメージが払拭されたような印象でした。

番外編として、大会終了後、福間さんと私で栃木の会の方にお会いし、約30分ほどそれぞれの登録会の開催方法等について意見交換ができました。

こちらの興味としては、一ヶ月足らずで20数回の登録会をこなしている栃木方式について、なぜそのような神わざ的な回数が可能なのか。という疑問でしたが、時間に余裕のある方が、献血車と一緒に回っているというお話を聞き、なるほどと納得した次第です。

それともう一つ。命のアサガオの「丹後まみこさん」にお会いできたことです。

命のアサガオに関する当会の活動をお話しし、また、丹後さんと呼んで講演会を開きたいという小学校長がいらした話もしました。

もし、今後そのような希望があればいつでも言って下さいというお返事を頂き、大変嬉しい一日となりました。

午前中の地区普及広報委員研修会から始まり、午後の全国大会まで、約6時間ではありましたが、非常に有意義な時間を過ごせたと思っています。(伊井義人)

本年度の全国大会当日の午前中に行われました研修会の報告です。

いばらきの会からは、伊井さん、福間さん、葭原さん、私と4名が参加しました。

午前中に行われた研修会では主に抹消血幹細胞移植に関しての話でした。

詳細については、地区普及広報委員・説明員になっている方には財団から資料が送付されることと思っておりますのでご覧になっていただければと思います。

個人的な雑感としましては、例年言われていることですが午前中2時間あるかないかの研修会は時間が短すぎるというところでしょう。

当然、質疑応答の時間が少なすぎるせいもあり、参加者は消化不良的な部分はどうしても残ってしまいます。

既にみなさんの手元には抹消血幹細胞移植の運用に関する資料は財団から届いていると思いますが、運用としては試験的に提供経験者からのみ対象とし、追々全国化させるようです。

ただ、提供者に対する医療保障等の問題がクリアされていない側面もあるようで、一部の参加者からも慎重な対応を求める質問もありましたが、それらに対する財団側の対応には一抹の不安すら感じました。現段階ではまだまだ考えるべき事も多いのではと思います。

あたかも、救世主的方法が確立されたかのように思われている方も全国的に多いようですがこれだけ長い論議が続いていたわけですので法的整備も含め早期に進めていけるように望むばかりです。午後からの式典の様子は伊井さんの方からも報告がありましたので割愛しますが、来年は骨髓バンク設立20周年の年になります。

日頃なかなか交流する機会がない方々とも会える全国大会にみなさんも参加されてみてはいかがでしょうか？(小田倉孝夫)

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

☆会員便り☆

☆「こうすけ君のアサガオ」でグリーンカーテンを作りました

今年の夏、私の勤務先では、省エネ活動として「グリーンカーテン」作りを行いました。

「グリーンカーテン」は、ゴーヤなどのつる性植物で窓を覆い、室内の温度上昇を抑えるというもので、数年前から小学校や家庭を中心に行われています。

社内の環境管理部門に所属する私は、真っ先に「グリーンカーテンをいのちのアサガオで」と提案したところ、上司からも「いいことだね」と快諾して頂きました。

早速、福岡さんから種を送って頂き、約150株の苗を育てました。

そして、50株でグリーンカーテンを作り、残りの100株を従業員に配布しました。

配布にあたっては、「グリーンカーテンの作り方」と一緒に「いのちのアサガオのエピソード」も添えました。

グリーンカーテンとなったこうすけ君のアサガオは、猛暑に負けず、空に向かってぐんぐん伸びます。

日に10cm以上も伸びていく様子に、代々育ててくれた皆さんの思いが、特別な生命力となって育んでくれていると思わずにはいられませんでした。

大きく茂った葉は、直径15～20cmほどにもなり、グリーンカーテンとしても効果が大きく、とても立派でした。

こうすけ君のアサガオを知った方からは、「応援してるよ、社内のイベントでもPRしてみては」と声を掛けて頂いたり、取った種を持ち寄ってくれた方もいました。

「気負わず、あせらず、できることから、楽しく・・・」

説明会にもなかなか参加出来ず、いばらきの会にはかなりご無沙汰していますが、今回のグリーンカーテン作りで、「できることから、楽しく」を実践しています。

10月初旬、同僚と種の袋詰めを始めました。

以前伊井さんから伺ったとおり、種をきれいに選別し、きっちり8粒ずつ詰めています。

もうすぐ皆さんのところにお送り出来そうです。その時には、どうぞよろしく願いいたします。(林 敬子)



気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

☆☆☆☆☆☆☆☆

うしらの歌

☆☆☆☆☆☆☆☆

<骨髄バンクの将来>

骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄移植は、今や月間100例、年間1200例に達するほど実施され、血液難病の患者さんの救命に大きく寄与していることは言うまでもない。一方、さい帯血バンクによる移植例数も年間800例と、骨髄バンクに肩を並べるまでに成長してきている。さい帯血バンクの情報紙によれば、骨髄移植は感染症のリスクが高く、今や東大医科研においてはさい帯血移植は第一選択肢となっていること、さい帯血移植はドナーの負担がほぼ皆無であること、また骨髄バンクに保険適用が可能となってもコーディネート期間の長さは致命的欠陥であるとも言われている。また、さい帯血移植が骨髄移植に対して劣ると言われている生着率の悪さについても、輸注ではなく骨髄内へ直接移植する方法が開発されるなど、医療の進歩は著しい。骨髄バンクでは長年の課題であったPBSCT(末梢血幹細胞移植)が今年10月頃より一部で実施されることになった。先日財団より送付されてきた「PBSCTに関する委員会」中間答申書に目を通して見たが、骨髄移植と比較してドナーの負担軽減に繋がるのかは定かではない。ただ、全身麻酔がないこと、腰椎系既往歴が不適合条件から外れるなどドナーにとってプラスとなる要素があるのは好ましいことと言える。このPBSCTが骨髄バンクで骨髄移植に肩を並べることができるかについては今後の推移を見守っていこうと考える。(牛島英二)

★トピックス★

- 5月22・23日「リレー・フォー・ライフ2010in茨城」がつくば市中央公園で開催され800人の方が参加されたそうです。会場では「いばらきの会」で作成した「命のあさがお」500セットを配布していただきました。「リレー・フォー・ライフ」はアメリカから始まった活動で、『がんは24時間眠らない』ことから、チームで交代しながら夜通し歩くのがメイン行事のようです。そのため、近くの空地に宿泊用のテント村が出現したのはびっくりしました。なお、収益金は(財)日本対がん協会に寄付され、患者支援活動等に役立てられるそうです。来年もつくば市で開催されるそうです。(福間 究)

○先般当会にて発行しました10周年記念誌に関し筑波大学附属病院の池田様よりお言葉を頂きましたのでここにご紹介させていただきます。

平素はお世話になっております。貴会の10周年誠におめでとうございます。また、貴重な足跡を記録されましたあゆみも頂戴いたしまして感謝申し上げます。思い返すと、平成16年のつくばセンターで献血のときの小田倉様、福間様からのちょっとしたお話から、本学が協力させていただける運びとなりもう4年になろうとしています。当時お話を伺った時に、地域の医療機関で、医学教育の機関でもある本学が協力できなかった事を残念に思うとともに、患者さん・御家族、そして、将来を担う学生さんのためにも何とかしたいと想い、医学専門学群長(当時)に話に行ったことを最近のように思い出します。歴代の医学専門学群長・医学群長も大変理解してくださり、献血・登録会が定期的実施される運びになったことうれしく思います。いつか、多くの方が足を運ばれる本学学園祭での実現を願うばかりでございます。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

「チャンス」についても、多くの方の関心が多くなくなるのも早いです。
もちろん、県内の指定病院としての使命として今後ともご支援したいとおもっています。
もちろん、血液内科千葉教授はじめとして日々頑張っております。
毎回お届けくださる会報による筑波大学の登録会の様子を拝見し、本学学生の関心の高さ、登録への貢献など大変高い率で参加してくれていることうれしくおもいます。
本当に実現してよかったと思います。
今後とも、みなさまお体にはお気をつけいただき、ますます貴会が発展されますとこと祈念いたしております。ありがとうございます。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

☆☆☆☆☆☆☆☆
会長の独り言
☆☆☆☆☆☆☆☆

今年は春から異常に暑い日が続き、東京都心では明治9(1876)年の観測開始以来、真夏日の日数も最多記録を更新したそう。我が家の辺りには、炎天下で茶色く焼けた葉となって枯れてしまった木々が、力なく立っています。

この記録的猛暑の中、我が家の「命のアサガオ」は大きく育ちました。昨年は芽が出て50cmほど育ったところでみんな枯れてしまったため、今年は種を蒔く前に土の入れ替えを行い万全を期しました。発芽後は、毎朝、毎晩の水やりも欠かさず手塩に掛けて育てました。今ではジャングルのように育ってしまい、グリーンカーテンの域を超えて、家族からはひんしゅくを買っていますが。

手を掛ければちゃんと育つ。植物の場合はこうですが、人間社会においては、最近、自分の子を虐待する親のニュースばかりが聞こえてきます。本当に悲しい限りです。

私たちは、骨髄バンク支援という共通の認識の中で、生きてくても生きられないかも知れない子供達はもちろん、移植を待ち望んでいる患者さん達みんなに、生きるチャンスを与えられればという思いで活動をしています。(と信じています)

我が家のアサガオのように、子供達がスクスクと育っていく社会を願ってやみません。

(伊井義人)

☆骨髄移植推進財団からの御案内
コーディネーター養成研修会受講者募集のお知らせ

骨髄移植推進財団では次の要領でコーディネーター養成研修会受講者を募集しています。コーディネーターは患者と骨髄提供希望者(ドナー)との連絡調整(コーディネート)を適切に行い、迅速な患者救命を図ることを使命としています。

①募集地区:茨城県、栃木県 ②応募資格:25歳以上の健康な方。骨髄バンクを理解し、熱意を持ってコーディネート業務に時間と労力を割くことができる方。(子育てが一段落した主婦の方や、定年退職後に社会貢献活動を考えている方など)。ただし、骨髄移植のため登録中の患者さんやその家族、特定の患者の支援活動をしている方は除く。 ③研修期間:平成23年1月中旬~平成23年4月 ④研修内容:各地区での研修、近隣の指定病院での実地研修(10回以上)など。中間試験、終了試験あり。 ⑤受講料(教材費含む):無料(交通費、実地研修分は財団負担。 ⑥応募方法:履歴書(写真添付)、職務経歴書、事項動機(400字原稿用紙1枚)を添えて、下記まで申込む。 ⑦応募締め切り:平成22年12月16日必着。 ⑧応募先(問い合わせ先)

骨髄移植推進財団「コーディネーター養成研修会」係り。TEL:03-5280-2200

気負わず、あせらず、できることから、楽しく!

骨髓バンクのボランティアを応援してください
骨髓バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髓バンクの普及啓発をボランティアで行っています。活動資金は皆さまの善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。なお、ご面倒でもご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義：001 10-3-127575

加入者名義：骨髓バンクを支援するいばらきの会

事務局からのお知らせ

心のこもったご寄付をありがとうございました。(2010. 6. 1~10. 24)

林 敬子様 10,000円

藤岡 純子様 3,000円

山崎 楊久様 3,000円

☆今年のこども病院へのクリスマス訪問は12月18日(土)で調整中です。

ドナー登録は18歳から54歳までの健康な方ならどなたでも登録ができます。1人でも多くの皆様の御協力をお願いいたします。また、骨髓移植推進財団ホームページからも事前のお申し込みが可能となりました。ドナー登録についての詳しい説明もございますので是非ご覧ください。<http://www.jmdp.or.jp/index.html>

編集後記

○今までの暑さが嘘のようにいつのまにか肌寒さも感じる季節となりました
皆様も体調の変化にお気をつけください。

(編集担当 小田倉孝夫)

日本骨髓バンク骨髓提供希望者(ドナー)登録者数:368,885人(県内7,383人)

骨髓移植希望者(患者数):2,812人(海外1,394 県内25人)

**バンクを通じての移植例数:12,204例(海外197県内移植数214例、県内採取数240例)
(2010年09月末現在)**

(財)骨髓移植推進財団 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp>

ドナー登録についてのご質問・お問い合わせは

財団フリーダイヤル 0120-445-445 または ドナーズネット <http://donorsnet.net> まで

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！